様式第 15 号（第 9 条関係）

答申番号：令和 6 年度 答申第 1 号

答申書

1 審査会の結論

おいらせ町長が、令和 6 年 4 月 8 日付けお総第 10 号行政文書一部開示決定通知書（事務引継書（おいらせ町副町長退職関係））において一部開示とした決定のうち、「取組目標等の一般的な内容」や「すでに公になっている内容」等の、公にしても町民等の間に混乱を生じさせるおそれがない部分は、開示すべきである。

それ以外の不開示とした部分は、妥当である。

2 審査関係人の主張の要旨

（1）審査請求人の主張

審査請求人の主張を要約すると、以下のとおりである。

行政文書一部開示決定通知書（お総第 10 号、令和 6 年 4 月 8 日付）により、一部開示となった開示請求に係る文書の開示を求める。

①一部開示と決定した文書

事務引継書（おいらせ町副町長退職関係）

②一部開示の決定を取り消す理由

行政文書一部開示決定通知書には、行政文書を開示しない理由として、「該当部分は、町の内部検討・協議に関する情報であって、公にすることにより、町民等の間に混乱を生じさせるおそれがあるため」と記載されているのみであり、漠然としていて具体的な理由が記載されていない。

各課の懸案事項に係る部分の全てが開示しない部分には該当せず、開示できる部分もあるため、その部分は開示すべきである。

（2）処分担当課の主張

処分担当課の主張を要約すると、以下のとおりである。

①行政文書一部開示決定処分の内容

おいらせ町情報公開条例（平成 18 年おいらせ町条例第 8 号。以下

「条例」という。) 第7条第6号該当(町の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、不当に町民等の間に混乱を生じさせるおそれがあるもの)により一部開示決定

②条例第7条第6号該当性について

審査請求人は、「開示しない理由は漠然としており、具体的な理由が記載されていない」としているが、不開示情報とした「各課の懸案事項に係る部分」は、町の各課が抱えている課題、未処理事案などの懸案事項が記録され、個々の事案について内部検討や調整等が行われていた内容であり、それらを公開することにより町民等に混乱を招くおそれがある。

よって、条例第7条第6号に規定する「町の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、不当に町民等の間に混乱を生じさせるおそれがあるもの」に該当すると認められる。

③本件処分は妥当であり、審査請求人の主張を否認する。

3 調査審議の経過

令和6年 6月 6日	諮問
令和6年 6月 26日	審査担当課より弁明書受領
令和6年 7月 4日	審議
令和6年 8月 5日	口頭意見陳述、答申案審議

4 審査会の判断の理由

審査会は、審査請求の対象となった文書について、審査請求人及び処分担当課の主張を具体的に検討した結果、以下のように判断する。

(1) 本件対象文書の内容

本件対象文書である「事務引継書(おいらせ町副町長退職関係)」は、前副町長が退職する際に提出された、平成28年3月31日付けの行政文書である。

(2) 争点

①条例第7条第6号該当性について

処分担当課が主張する条例第7条第6号該当性について検討する。

ア 開示しない部分としての黒塗り箇所

黒塗りされた文書を見ると、各課の懸案事項が記載された部分について、課の名称以外の全ての内容が黒塗りされている。審査請求人の主張は、各課の懸案事項に係る部分は全てが開示しない部分には該当せず、開示できる部分は開示すべきというものである。

イ 黒塗り箇所の条例第7条第6号該当性

実際に黒塗りされた部分の内容を確認すると、各課が抱えている課題や未処理事案などの懸案事項が記載されているものの、中には「取組目標等の一般的な内容」や「すでに公になっている内容」も含まれており、全てが条例第7条第6号に該当するとは認められない。

ウ 開示すべき部分について

イで述べたように、「取組目標等の一般的な内容」や「すでに公になっている内容」等の、公にしても町民等の間に混乱を生じさせるおそれがない部分は、開示すべきであり、それ以外の部分についての不開示決定は妥当である。

(3) 結論

以上のことから、「1 審査会の結論」のとおり判断する。

(4) 付言

不開示とすべき内容を含む一文の全てを黒塗りとする場合は、「おいらせ町長が保有する行政文書の開示等に関する事務取扱要綱第3 4 キ」に例示されているとおり、「不開示情報の部分を除くと、それ自体としては無意味な文字のみとなるため、部分開示はしない」等の理由を付して一文の全てを黒塗りするなど、開示請求者に配慮すべきである。